

古文書だより

第2号

第八代藩主黒田治高墓所←

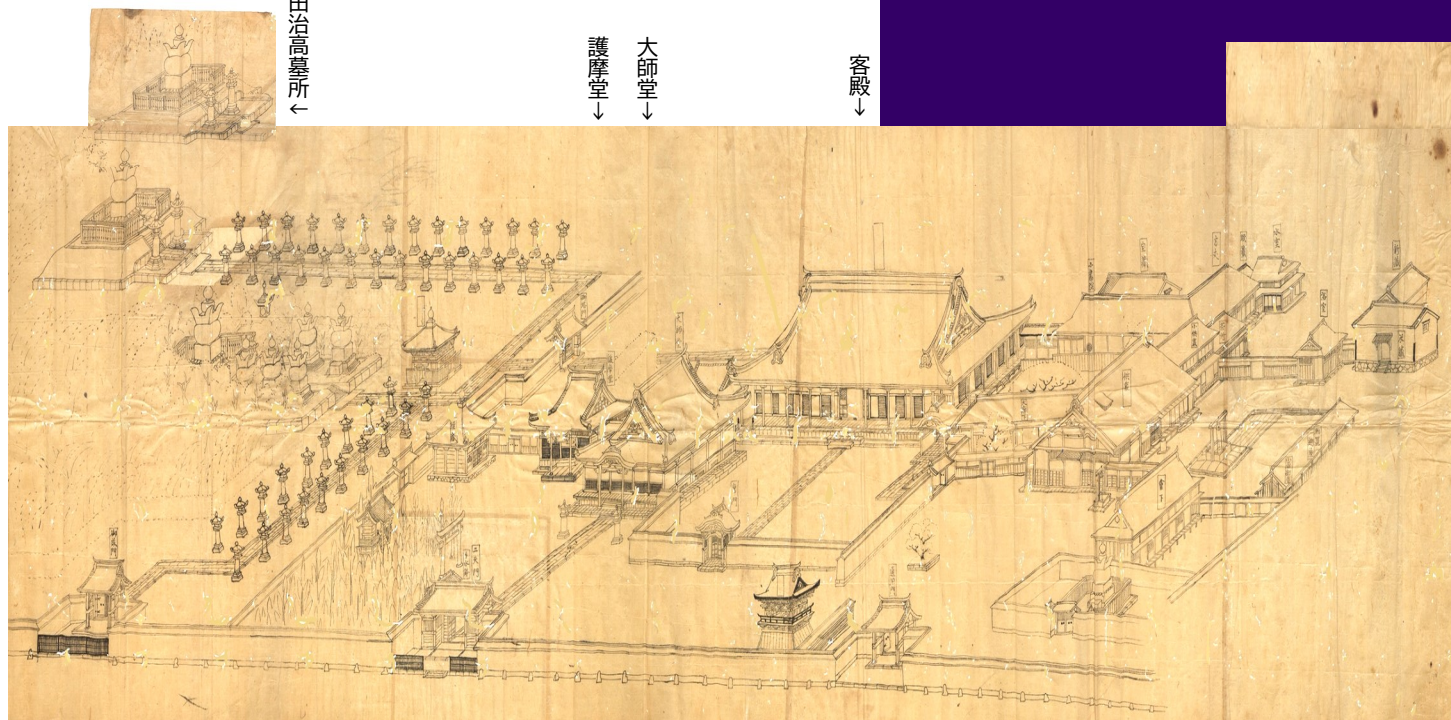
護摩堂↓

大師堂↓

客殿↓

第三代藩主黒田光之墓所→

→ 第二代藩主黒田忠之墓所



↑御成門

↑二天門

とうちようじもんじょ

けいだいず

東長寺文書 A893-3 境内図

真言宗別格本山東長寺(福岡市博多区御供所町)を描いた絵図。大師堂を中心とする伽藍や福岡藩主黒田家墓所などが建ち並ぶ、江戸後期から明治初期にかけての景観を描写しています。

目次

令和4年度新収蔵資料

遠藤栄雅資料(三) ……2

益富資料 ……3

表紙の古文書資料

東長寺文書 ……3

インフォメーション ……4

令和4年度古文書学講座

パネル展示「明治時代の山笠写真」

令和4年度 新収蔵資料

福岡市総合図書館は平成8年(1996)6月に開館して間もなく28年目を迎えます。なかでも文書資料部門は福岡市の文書館(アーカイブズ)として、地域の歴史の情報資源となる古文書や歴史的・文化的価値をもつ公文書等を収集、整理、保存して次の世代へ伝えられるとともに、利用者のみなさまへ資料や情報の提供をおこなっています。

古文書資料は国立公文書館から専門性を認められた認証アーキビスト3名が担当し、令和4年度末までに約8万4千5百点を収蔵しています。古文書資料のご利用方法など、詳しくは当館ホームページの「文書資料室」をご覧ください。

ホームページ
「文書資料室」



ホームページ
「収蔵品データベース」



福岡市総合図書館 古文書資料

令和4年度データベース公開資料

ホームページの「収蔵品データベース」で目録検索できるようになった、新しい古文書資料です。資料は原則として、当館2階の文書資料室で、マイクロフィルム等によって閲覧、複写できます。

■令和4年度新収蔵資料

〈寄贈資料〉

遠藤栄雅資料(三) 695点

藤史明資料(追加分二) 4点

〈マイクロフィルム収集資料〉

益富資料 1037点

■収蔵資料の詳細目録

〈マイクロフィルム収集資料〉

東長寺文書(五) 511点

〈寄贈資料〉

えんどうよしませ

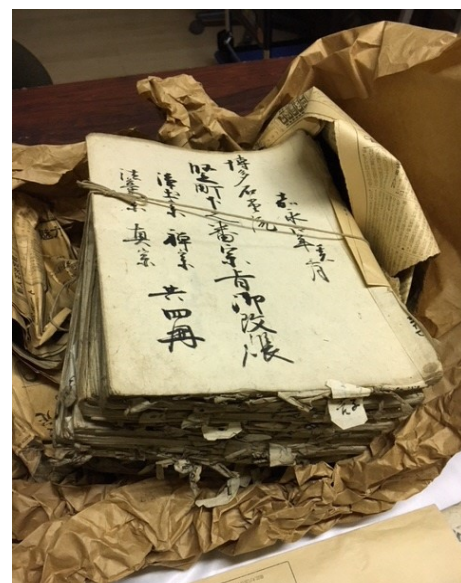
遠藤栄雅資料(三)

福岡市博多区下呉服町の堅町筋(たてちようすじ)に面して建つ、遠藤家。往時の町家の姿を今に伝える母屋の奥には、以前、同家の土蔵がありまして。平成17年(2005)3月の福岡県西方沖地震によってこの土蔵が被災し、中の品々を当館に避難させました。これが遠藤栄雅資料です。その数は約140箱以上。その量ゆえ複数回に分けて公開することとなり、令和4年7月にその(三)を公開しました。

江戸時代、遠藤家のあるこの町は堅町下と呼ばれ、元来遠藤本家がここで質屋業を営んでいました。19世紀初頭、本家七代目の長男甚助が同町内に別家を立て、同じ質屋業を始めたのが本資料群が伝わる遠藤家の始まりです。

遠藤家は家業を営みながら、堅町下の「年寄」(としより)を務めてきました。「年寄」とは、福岡城下の福岡・博多両市中の町ごとにおかれた、町政の一端を担う大切な町役の一つでした。何度も町役を務めた遠藤家。土蔵には「年寄」役に関する多くの記録類が残され、そこから当時の博多の町政に関して様々なことを知ることができます。

明治4年(1871)、この遠藤家に博多店屋町の松永家から宗次郎が養子に入り、五代遠藤甚蔵を名乗ります。五代甚蔵は代々質屋業を営む松永家



新聞紙等に包まれた状態で大切に保存されていた、博多の宗旨改帳の束。他にも約100年分の人払帳が確認できました。これらは、遠藤栄雅資料(二)として公開中です。(写真はA125-5-3)

九代宗右衛門を父に、博多年行司(ねんぎょうじ)・山崎藤兵衛の娘を母に、嘉永6年(1853)に生まれました。祖父にあたる松永子登(しとは)は著名な文人で、仙厓の「ゆばり合戦図」(「ゆばり」は尿の意味です)に描かれた人物ともいわれています。

五代甚蔵は代々の当主のなかでも傑出した人物でした。昭和12年(1937)に85歳で亡くなるまで、福岡市議会議員、県議会議員、筑紫銀行専務取締役、博多財産区会議員等々を歴任し、中央の政界の人々とも交流を持ち、「博多の元老」とも称されました。遠藤栄雅資料(三)には、五代遠藤甚蔵の足跡を辿ることができる、542点の資料も含まれています。

現在、遠藤栄雅資料(一)122点、『平成29年度古文書資料目録23』、遠藤栄雅資料(二)812点(『令和2年度古文書資料目録26』)、遠藤栄雅資料(三)695点(令和4年度データベース)が公開中です。(重久)

〈マイクロフィルム収集資料〉

ますとみ

益富資料

益富資料(益富氏所蔵)とは、平戸藩領の生月(いきつき)島(現、長崎県平戸市生月町)で鯨組を営んでいた益富家に伝来した資料群です。益富組は福岡藩とも鯨商品の取引を通じて密接な関係を築いていました。詳細は「古文書だより」第1号をご覧ください。益富資料は令和4年度に1037点を追加公開し、計2392点を公開しています。

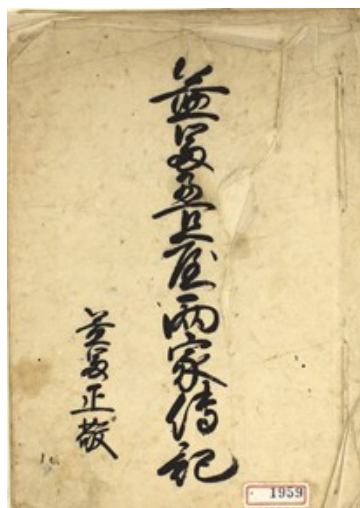
令和4年度に新しく公開した資料の中には、「益富畳屋両家伝記」(資料番号A1958・A1959・A2432)や「先祖山県氏系譜」(資料番号A1957)、「先祖書 控」(資料番号A1956)などの由緒関係資料が含まれます。益富家の先祖は誰で、どのように捕鯨業を開始したのか。そして益富一族にはどのような人々がいるのか。これらの資料には、そのような益富家の由緒と系図が記されています。益富家は、本家及び多数の分家による「同族団経営」を行っていました。分家には山県(やまがた)家と畳屋(たたみや)家があり、山県家は平戸藩に仕官し、代々藩士として藩側と繋がりを持つことによって益富組の経営の一翼を担いました。また、分家としての畳屋家は、鯨組の操業に直接携わることによって、本家・山県家と共に益富組の経営を担いました。

これらの由緒関係資料は、六代益富家当主の正

敬の代に書き写されたものが伝来しています。正敬は、幼名を亀太郎といい、分家の「山県三郎太夫家」の二代正明(後の初代益富波右衛門)の嫡男として生まれました。その後正敬は益富本家の養子となりますが、五代正弘が天保3年(1832)に亡くなった時にはわずか4歳でした。そのため、実父の正明が初代益富波右衛門を名乗り正敬の後見となっていました。正明の死後は、正明の弟の正方が後見となります。3冊伝来している「益富畳屋両家伝記」の表紙には正敬と正方の名が記されており、彼らが益富家の由緒を再確認していたことが分かります。

また、「先祖書 控」や「先祖山県氏系譜」は全て正敬が当主であった嘉永2年(1849)に書写されたと明記されています。嘉永期は益富組の経営不振の時期とも重なり、そのことが益富組の来歴を再認識する契機となった可能性もあります。

こうした益富資料の伝存状況から、正敬の代で益富本家及び分家の由緒と益富組の来歴を再認識する意識が高まったことがうかがえます。(鈴木)



A1959 益富畳屋両家伝記
益富家だけでなく、山県家や畳屋家の系図も記されています。表紙には六代当主正敬の名前があります。

とうちやうじもんじょ
表紙の古文書資料 東長寺文書 A893-3 境内図

南岳山東長寺は、大同元年(806)に唐から帰国した空海(弘法大師)によって博多の海辺に創建されたという由緒ある真言宗寺院です。江戸時代には福岡藩第二代藩主黒田忠之(くろだただゆき)によって、現在地の福岡市博多区御供所町で再興されました。

東長寺が所蔵する多くの文物のうち、古文書群を東長寺文書といいます。当館はこれをマイクロフィルムによって収集、公開し、令和4年度末までに東長寺文書(一)~(五)総計6732点を数えています。このうち絵図5点は、デジタル画像の閲覧、複写もできます。

表紙に掲げた境内図は、縦(最大)53cm×横178cm。第二代藩主黒田忠之、第三代藩主黒

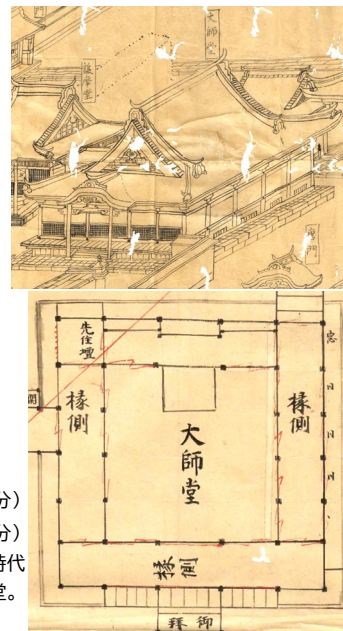
田光之(みつゆき)、第八代藩主黒田治高(はるか)の墓所を描いていることから、治高が没した翌年、その墓所が建立された天明3年(1783)以降の景観を表すとみられます。

画面手前に描かれた通りは、現在の大博(たいはく)通りの一部にあたります。この絵図は、博多の都市形成の歴史を知る上でも貴重な資料です。なお、表紙では見やすいように寸法に改変を加えています。(三角)

上) A893-3 境内図(「大師堂」部分)

下) A892 寺内絵図(「大師堂」部分)

両図を合わせてみると、建物の構造もよくわかります。江戸時代には山門(二天門)の正面にあって、伽藍の中心をなした大師堂。建物はそのまま境内で移築され、現代まで伝えられています。



令和4年度 古文書学講座

■初めての古文書■ 当館は、初めて古文書を勉強する方々向けに、4回連続の講座をおこなっています。3年ぶりの開催となった令和4年度も、古代、中世、近世、近代の歴史研究の専門家を講師にお迎えし、資料を読み解きながら、その歴史的背景を解説してもらいました。

■学びの楽しさ■ 「展示の古文書を読めるようになりたい」などの思いから受講した方々からは、「歴史資料としての古文書に関心が深まった」、勉強の「糸口がみつかりそう」「入口に立った！」などの感想も聞かれました。講師の先生方にも改めてお礼申し上げます。

令和4年度 講師とテーマ

- 【古代】重松 敏彦氏(太宰府市公文書館)
「藤原公任自筆稿本
『北山抄』巻十 史途指南」
- 【中世】伊藤 幸司氏(九州大学)
「禁制(きんぜい)を読む」
- 【近世】岩崎 義則氏(九州大学)
「平戸藩主松浦熙の石筆と石筆文書」
- 【近代】日比野 利信氏
(北九州市立自然史・歴史博物館)
「近代文書(書簡史料)を読む
—安川敬一郎宛田平五郎書簡—」

令和5年度の講座については、詳細が決まりしだい、ホームページ、チラシ、「市政だより」などでお知らせします。

パネル展示「明治時代の山笠写真」



■博多の夏といえば山笠■ 博多祇園山笠は、毎年7月に行われる博多の総鎮守櫛田神社の祭礼で、国指定重要無形民俗文化財、ユネスコ無形文化遺産に登録されている伝統行事です。

■寄贈された山笠写真■ 令和4年7月～8月、当館は文書資料室でパネル展示「明治時代の山笠写真」を開催しました。写真は明治4年(1871)の2点と明治25年の2点。福岡藩士吉浦家に伝来した藤史明(とうふみあき)資料の追加分として寄贈されたものです。

■明治初期の山笠■ 特に明治4年の写真2点は、たいへん珍しく貴重です。写っているのは二番山・呉服町上(現、福岡市博多区上呉服町)の山笠と、四番山・豎町下(同下呉服町)の山笠(左の写真)。両脇に写る家々と比べると、山笠の高さにびっくり！迫力ある山笠の写真から、これを勇壮に昇き廻っていた人々とまちの興奮が伝わってくるようです。

■ドキドキとワクワクを■ 当館は今後もパネル展示、ホームページの「古文書資料紹介」などをとおして、古文書のおもしろさを発信していきます。

藤史明資料(追加分二) A2

山笠写真

標題「蠢斯点領欣」。明治4年の四番山、豎町下の山笠です。

ホームページ
「古文書資料紹介」



ホームページ
「図書館の発行物」



古文書だより 第2号 発行日 令和5年(2023)3月31日

編集・発行 福岡市総合図書館 文学・映像課 古文書係
〒814-0001 福岡市早良区百道浜3丁目7番1号

TEL 092-852-0634 FAX 092-852-0609 URL <https://toshokan.city.fukuoka.lg.jp/>

■本誌に掲載の画像は無断転載を禁じます。ご利用方法などは、ホームページの「文書資料室」で案内しています。

■「古文書だより」の最新号やバックナンバーは、ホームページの「図書館の発行物」でもご覧ください。

■編集後記 昨年度創刊の「古文書だより」は増刷に増刷を重ねました。ご覧いただきありがとうございます。(三角)